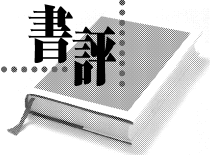


書評



American Psychiatric Association 原著

滝沢 龍 訳

精神疾患・メンタルヘルスガイドブック

DSM-5 から生活指針まで

野村俊明

本書はアメリカ精神医学会が発刊した精神疾患 (mental disorders) の当事者とその家族のための診断や治療の解説書の翻訳である。精神医学に関連する書籍は巷にあふれているが、本書は其中でも特色ある一冊であり高い価値を持っている。

本書は、原書の副題に Your Guide to DSM-5 とあることから分かるように、DSM-5 に準拠して構成されている。簡単な序章の後に、DSM-5 と同様に神経発達症群/神経発達障害群から始まり、以下、統合失調症スペクトラム、双極性障害、抑うつ障害群……という順番で 19 の項目が扱われている。統合失調症や双極性障害などの精神科臨床の中心をなす疾患だけでなく、排泄症群、性機能不全群、性別違和などの領域にも相応のページを割いているのも特徴の一つであるが、これはおそらく当事者やその家族が利用することを意識しているからであろう。

各章では、当該疾患の概説に続いて診断基準が分かりやすく述べられ、症例の紹介、リスク因子、治療法が紹介されている。適宜挿入されている「心身の健康を保つためのアドバイス」や「家族へのアドバイス」も役に立つ。

コラム「BOX」で扱われている話題 (例えば「うつ病と悲嘆の違い」など) も興味深い。各章の末尾には「キーポイント」として簡潔な要約が記載されている。どの章も明快で分かりやすく、しかもしっかりした内容を持っている。

最終章は「治療の要点」と題されており、メンタルヘルスケアに携わる職種の紹介、診断と治療の概略の解説、主な精神療法や精神科で使用する薬物

の説明などが記述されている。

本書はアメリカ精神医学会が初めて当事者や家族のために作成したガイドブックだということである。評者は一読して、こうした書物を刊行できるアメリカ精神医学会の底力とでもいうべきものを痛感させられた思いであった。今日のアメリカ精神医学の到達点が、平易に、しかし体系的に記載されている。これなら当事者や家族にも分かりやすいだろうと思う。こうした書籍は、残念ながらまだわが国にはないのではあるまいか。

訳文はよく練られており、日本語として分かりやすい良訳である。翻訳にありがちな生硬な表現がないのは、本書が当事者向けであって英文自体が平易であるからだけでなく、訳者の才能と努力によるものであろう。訳者は助教という肩書きからすると若い世代に属する精神科医なのだろうが、今後の活躍が大いに期待される方だと思われる。原著の各章にある印象的な写真が掲載されていないのは少し残念だが、本文の部分は随所に編集上の工夫が感じられ読みやすく仕上がっている。訳者と編集者の意気込みが感じられる一冊である。

本書は、既に述べたように DSM-5 の解説書としても十分な水準を保っている。当事者とその家族だけでなく、メンタルヘルスケアにかかわる専門家、とりわけ研修医、他科の医師、心理師などに強く薦めたい一冊である。

(日本医科大学・心理学)

●A5 360 頁 2016 年 09 月 定価：本体 3,500 円＋税 医学書院刊